

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：84301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23320038

研究課題名(和文) 南山城地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study on the Culture and History of Buddhism in the Minami Yamashiro Region

研究代表者

佐々木 丞平(sasaki, jyohei)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・その他部局等・館長

研究者番号：20144313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 16,000,000円

研究成果の概要(和文)：京都府南部、木津川流域は旧山城国南部にあたることから南山城と呼ばれる。この地域は弥生・古墳時代以来の考古学的遺跡をはじめ、奈良・平安時代に創建された古い寺院が点在している。今回の研究ではこの地域の歴史と文化の特色を明らかにするために11の寺院が所蔵する仏像や工芸絵画作品などを調査した。その結果この地域が南の奈良と北の京都の仏教文化が重なりあった地域であったことが明らかとなった。

この研究成果は京都国立博物館で開催された特別展覧会「南山城の古寺巡礼」(2014年4月～6月)において公開され、七万人もの来館者が調査された仏像や仏画、工芸作品を鑑賞した。

研究成果の概要(英文)：Minami Yamashiro is the area along the Kizu River in present day southern Kyoto prefecture, formerly the southern part of Yamashiro province. This region is home to archaeological sites dating back to the Yayoi and Kofun periods as well as numerous ancient Buddhist temples established in the Nara and Heian periods.

This study surveyed the Buddhist sculptures, paintings, and works of decorative and applied art from eleven temples in the region, with the purpose of clarifying the region's distinctive culture and history. As a result of this study, researchers were able to identify in the region a distinctive crossover of Buddhist culture from Nara in the south and Kyoto in the north. This research was conducted in conjunction with the exhibition Pilgrimage through Minami Yamashiro: Early Buddhist Art of Southern Kyoto, held at the Kyoto National Museum from April to June 2015, which featured the Buddhist sculpture, paintings, and works of decorative and applied art from this region.

研究分野：美学・美術史

キーワード：仏教文化 木津川流域 仏像 寺院 平安時代 鎌倉時代

## 1. 研究開始当初の背景

京都国立博物館では学芸担当者および館外の研究者や美術歴史専攻の大学院生など共同して京都市とその周辺の古社寺の伝来文化財の悉皆調査を行ってきた。その成果は当館の「社寺調査報告書」として継続的に刊行しており京都文化の研究に寄与してきた。その調査の経験と実績が蓄積している状況にあった。その発展形として京都府南部地域に分布する平安鎌倉時代以来の古い寺院に伝来する文化財の調査研究も対象に上がり、なおかつ当該の寺院側から博物館に調査が求められてきた。

## 2. 研究の目的

京都府南部、木津川流域を南山城と呼ぶが、この南山城地域には多数の古い寺院が存在し現代まで貴重な文化財を伝えてきた。それらの寺院は京都市と奈良市の間にあって研究者や観光客の訪問見学が盛んに行われる地域ではなかった。いわば調査研究の空白域といつてよい地域である。本研究の目的は相楽郡笠置町、木津川市、京田辺市、綴喜郡宇治田原町に存在する 11 寺院を対象に伝来文化財の調査をおこなってその実態を明らかにし、あわせてこの地域の文化的特性を解明することにある。加えて考古学的な遺跡出土品や寺院跡出土瓦などの調査もあわせて行うこととした。

## 3. 研究の方法

研究調査対象とした寺院は

- 1、笠置寺（相楽郡笠置町笠置山）
- 2、海住山寺（木津川市加茂町例幣）
- 3、現光寺（木津川市加茂町加茂）
- 4、岩船寺（木津川市加茂町岩船）
- 5、浄瑠璃寺（木津川市加茂町西小）
- 6、神童寺（木津川市山城町神童子）
- 7、蟹満寺（木津川市山城町椅田浜）
- 8、寿宝寺（京田辺市三山木塔ノ島）
- 9、観音寺（京田辺市普賢寺下大門）
- 10、酬恩庵（一休寺・京田辺市新里ノ内）
- 11、禅定寺（綴喜郡宇治田原町禅定寺）

以上の 11 寺院である。

あわせて木津川市教育委員会所蔵の出土品のうち、恭仁京出土瓦や高麗寺出土品、神雄寺跡出土品の調査を計画した。さらに京田辺市教育委員会所蔵の人物埴輪の調査。京都大学総合博物館所蔵の椿井大塚古墳出土品の調査、井手町教育委員会所蔵の井手寺跡出土品の調査も計画した。

研究の方法は、まず文献や各寺院でリスト化された文化財の性質や員数を整理して調査日数や人員の配置を計画した。また各寺院を少数の担当者が事前に訪れて文化財の概数や所在場所を実見し、さらに文化財の担当

者（住職・副住職）に話を伺って効率的な調査方法を十分に検討して事前準備を行った。調査参加者は京都国立博物館の学芸部研究員、同館の調査員（外部大学教官等）さらに美術史や歴史を専攻する京都市周辺の大学院生などに加え、博物館の撮影スタッフ、外部の委託カメラマンも撮影機を持って参加した。

調査の方法は各寺院に対して 1 日から 10 日ほどをかけて調査期間を設定した。その差は収蔵する文化財の多寡によるものである。特に文化財が多かったのは海住山寺と酬恩庵の二箇寺であった。一方、寿宝寺や現光寺は作品数が少なかったために 1 日の調査で終了した。調査方法は 5～15 名のスタッフが直接寺院を訪問し、住職の立会いのもとで庫裏本堂土蔵収蔵庫などに収蔵されている文化財を方丈や本堂広間に出してきて直接作品を調査する。木箱の埃を払い、調書に箱書の文字を写し、作品を取り出して採寸し材質を記入し銘があれば記載し、調査用の簡易撮影を行い、重要と判断された作品についてはカメラマンによる本格的な撮影（フィルムとデジタル）を行った。彫刻については本尊などの大型仏像についても接近して調査採寸部分査定を行った。小型の仏像については仏壇から出して細部を観察し、採寸し、銘文を確認し、調書を記入した。

考古学的な調査は木津川市・京田辺市・井出町・京都府埋蔵文化財調査研究センター・京都大学総合博物館において主に飛鳥～奈良・平安時代の出土品の実測撮影調査を行う。また古墳時代の重要古墳である木津川市山城町の椿井大塚山古墳出土銅鏡も調査対象とし、写真撮影を計画した。

調査第 1 回目 平成 23 年 2 月 7 日（1 日）

対象寺院 岩船寺（木津川市加茂町岩船）  
参加者 19 名 主な調査作品は木造普賢菩薩騎象像、出土古瓦、出土陶磁器、金作品、仏画、岩船寺縁起など。調書作成・撮影

調査第 2 回目 平成 23 年 2 月 8・9 日（2 日間）

対象寺院 浄瑠璃寺（木津川市加茂町西小）参加者 15 名 主な調査作品は木造大日如来坐像、仏画、印仏、浄瑠璃寺境内図版木、本堂裏の仏具類など。調書作成と撮影。

調査第 3 回目 平成 23 年 2 月 14～16 日（3 日間）

対象寺院 海住山寺（木津川市加茂町例幣）参加者のべ 40 名 主な調査作品は風鐸・六器・懸仏など金作品多数、本堂・文殊堂・土蔵二階などにある木彫、襖絵・仏画・書などの調書作成と撮影。

調査第 4 回目 平成 23 年 6 月 30 日～7 月 2 日（3 日間）および 7 月 5・6 日（2 日間）

対象寺院 海住山寺（二次調査）参加者の

べ 60 名 第 3 回調査で調べ切れなかった多数の金工作品・書画を中心とした追加作品調査。調書作成と写真撮影。

調査第 5 回目 平成 24 年 2 月 13・14 日( 2 日間)

対象寺院 笠置寺(相楽郡笠置町) 参加者 30 名 主な調査作品は笠置寺経塚遺物(宝物館・正月堂)、木造毘沙門天立像(毘沙門堂)、笠置寺縁起絵巻(方丈)、仏画・書跡類(方丈)などの調書作成と写真撮影。

調査第 6 回目 平成 24 年 2 月 16・17 日( 2 日間)

対象寺院 酬恩庵(一休寺)(京田辺市新) 参加者 36 名 主な調査作品は開山堂の南浦紹明像ほか彫像、一休宗純像など頂像、涅槃図などの仏画、近世絵画、染織、漆工、金工作品などの調書作成写真撮影。

調査第 6 回目 平成 24 年 2 月 20 日( 1 日間)

対象寺院 蟹満寺(木津川市山城町) 参加者 12 名 主な調査作品は本尊の銅造釈迦如来坐像、木造阿弥陀如来坐像、十二天像仏画、金工作品などの調書作成と写真撮影。

調査第 7 回目 平成 24 年 2 月 21・22 日( 2 日間)

対象寺院 神童寺(木津川市山城町) 参加者 20 名 主な調査作品は木造不動明王立像ほかの木彫、金工作品、仏画、経巻など。調書作成と写真撮影。

調査第 8 回目 平成 25 年 2 月 25 日( 1 日)

対象寺院 観音寺(京田辺市大御堂) 参加者 16 名 主な調査作品は乾漆十一面観音立像、絵馬、仏画、近世絵画などの調書作成と写真撮影。

調査第 9 回目 平成 25 年 2 月 26 日( 1 日)

対象寺院 寿宝寺(京田辺市三山木) 参加者 12 名 主な調査作品は木造千手観音立像、聖徳太子立像、金工作品などの調書作成と写真撮影。

調査第 10 回目 平成 25 年 2 月 28 日・3 月 1 日( 2 日間)

対象寺院 禅定寺(綴喜郡宇治田原町) 参加者 24 名 主な調査作品は十一面観音立像、毘沙門天立像、陶磁器類、金工品、月性上人遺品などの調書作成と写真撮影。

調査第 11 回 平成 25 年 3 月 4 日～ 6 日( 3 日間)

対象寺院は酬恩庵( 2 回目)(京田辺市新) 参加者 30 名 主な調査作品は一休禅師坐像の撮影、近世絵画作品、書跡、一休遺品の袈裟・染織・工

芸品などの調書作成と写真撮影。

その他の調査 上記の寺院調査の合間に木津川市教育委員会が発掘調査した高麗寺跡出土品や蟹満寺出土品、瓦窯跡出土品、神雄寺跡出土品の調査、撮影を行った。

また京田辺市教育委員会所蔵の堀切 7 号墳出土の人物埴輪(男子)の調査と撮影。また京都大学総合博物館所蔵の椿井大塚山古墳出土銅鏡(三角縁神獣鏡)の調査を行った。

#### 4. 研究成果

今回の南山城地域の古寺伝来文化財の総合調査を通じて得られた研究成果を寺院毎に列挙し、最後に総括する。

1 岩船寺の調査では本堂裏側の小型の仏像群に見るべきものがあつた。また四つの顔面をもつ「四面菩薩像」のような特異な仏画が見出された。さらに鎌倉時代の灰釉口瓶もまた得意な事例として注意されるとともに鎌倉期の岩船寺の状況を想起される史料であることが分かつた。

2 浄瑠璃寺の調査では方丈の大日如来坐像(12～13 世紀)の様式が南都仏師によるものであることが確認された。また近世の案内絵図の版木の存在から江戸時代後期の巡礼の様子が判つてきた。

3 海住山寺の調査では豊富な伝世文化財の存在から、平安時代以来の海住山寺の歴史の長さを明らかにできた。特に桃山時代の屏風はやや傷んではいるものの新出資料として貴重であることが分かつた。また六器などの金工作品の一部に針描銘があるものが発見され、加茂地域での寺院の盛衰の様子が浮かび上がつてきた。また海住山寺の山下にあつた山城国分寺の什物であつた仏画「愛染明王像」の存在も明らかとなつたことは貴重な発見であつた。また海住山寺が管理する加茂現光寺でも重文の十一面観音坐像も調査できた。さらに海住山寺の紹介で山下の法性寺の調査を行い、鎌倉時代の優美な地藏菩薩像の存在を知ることができた。

4 笠置寺の調査では弥勒石像前から出土した平安時代後期の経塚出土品の調査ができたことが大きい。平安時代の弥勒信仰のありかたが良く分かつた。また中世の笠置寺縁起絵巻の調査から独特な絵画表現が分かつてきた。

5 酬恩庵の調査では寺院伝来の一休宗純に関わる遺品を本格的に調査することができたことが重要である。袈裟・衣・靴・靴下・菅笠・笛・茶碗などまとまって所在することが明らかとなつた。従来注目されてこなかつた近世後期の絵画類に重要なものがあつることが分かつた。

6 蟹満寺の調査では仏画の中に貴重なものが含まれることが判明した。また小型ではあるが阿弥陀如来坐像に古様を呈するものがあり 9 世紀に遡るものと判明した。また

出土瓦のうち創建時期を示す7世紀末頃の事例があることが判り、本尊の製作年代に一定の根拠を与えることができた。

7 神童寺の調査によって多様な木彫群の存在から神童寺の収蔵庫の仏像群の成り立ちが想定された。また室町時代の仏画などの存在が神童寺の歴史を示すことが判った。

8 観音寺の調査によって本尊十一面観音(奈良時代)と対応する飛鳥時代末から奈良時代にかけての古瓦の存在が明白になった。また近世の多様な文化財の存在が明らかとなった。

9 寿宝寺の調査によって本尊千手観音の特異性があきらかとなり、この場所ではなく近辺の寺院から移動してきた仏像であることが明らかとなった。仏像群の成り立ちになんらかの背景があったことが判った。

10 禅定寺の調査によって平安時代半ばに創建された寺院(東大寺系・華嚴宗に始まる)であり、近世初期に曹洞宗(禅宗)に変様したことが判った。そのため主要な平安時代の仏像群と、近世の禅宗に関する資料の二群に分けて考えることができることが判明した。寺院の宗門変遷史的に興味深い寺院であることが判った。

総合評価としては南山城地域が弥生・古墳時代以来先進的な地域であることが考古遺物の調査から改めて明らかとなった。また高麗寺跡や山城国分寺跡、さらに井出寺跡出土品の調査によって飛鳥時代の古い段階から仏教寺院が造立された地域であることも検証された。さらに山城国南端にある地域性から南都奈良の影響が色濃いことが観音寺の乾漆十一面観音立像や神雄寺出土塑像片(奈良時代)などから明白となり、さらに現在も浄瑠璃寺や海住山寺など実際に西大寺系あるいは興福寺系の寺院であることがそれを補強している。一方平安時代末には浄瑠璃寺の本堂(九体阿弥陀堂)が建設されたが、平安京的な浄土信仰が阿弥陀如来像の様式(定朝様)や堂塔の配置に現れていることが判った。さらに木津川流域には特に十一面観音に対する信仰が顕著であったことが判明しこの地域の特性を示していた。また一休宗純の墓があることで知られていた酬恩庵(一休寺)では一休禅師の遺品が良好な状況で伝世していたことが明らかとなった。加えて江戸時代の絵画類にも見るべき優品が多いことも判った。

なお今回の科学研究費による研究成果は京都国立博物館の明治古都館で開催した特別展覧会『南山城の古寺巡礼』展(平成26年4月22日~6月15日)において調査した文化財のうち主要な140点を選んで展示し来館者に公開した。その作品の代表は禅定寺の重文十一面観音立像であった。総入館者約7万人が展示を観覧した。また展覧会の会場において科学研究費による文化財調査風景の写真をもとにパネル作成して掲示し、来館者

に科研調査への理解普及を図った。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1件)

京都国立博物館・朝日新聞社編集発行『南山城の古寺巡礼』(特別展覧会図録)242頁 平成26年4月22日

〔上記図録の掲載論文〕

宮川禎一「南山城の古寺巡礼」8-16頁

淺湫毅「南山城古仏巡礼」178-184頁

大原嘉豊「流転の仏画 南山城地域伝存仏画から見える歴史の断片」185-188頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究代表者

佐々木 丞平(SASAKI JYOHEI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館館長

研究者番号:20144313

(2)研究分担者

村上 隆(MURAKAMI RYU)

京都美術工芸大学・工学部・教授

研究者番号:00192774

山本 英男(YAMAMOTO HIDEO)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部上席研究員

研究者番号：10200833

赤尾 栄慶 (AKAO EIKEI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部副部長

研究者番号：20175764

宮川 禎一 (MIYAKAWA TEIICHI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部企画室長

研究者番号：30280530

尾野 善裕 (ONO YOSHIHIRO)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所室長

研究者番号：40280531

山下 善也 (YAMASHITA YOSHIYA)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館主任研究員

研究者番号：40463252

### ( 3 ) 連携研究者

山川 暁 (YAMAKAWA AKI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部教育室長

研究者番号：70250016

永島 明子 (NAGASHIMA MEIKO)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部主任研究員

研究者番号：90321554

淺湫 毅 (ASANUMA TAKESHI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部主任研究員

研究者番号：10249914

羽田 聡 (HADA SATOSHI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部主任研究員

研究者番号：30342968

大原 嘉豊 (OOHARA YOSHITOYO)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部主任研究員

研究者番号：90324699

呉 孟晋 (KURE MOTOYUKI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部研究員

研究者番号：50567922

水谷 亜希 (MIZUTANI AKI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館学芸部研究員

研究者番号：20565296